

神奈川県立 生命の星・地球博物館
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

友の会通信

112
2021.06

Vol.25 No.1 通巻112号 2021年6月15日発行(年4回発行)



植物観察会



昆虫観察会



友の会総会



地学観察会

友の会総会及び観察会の様子

2021年度友の会事業について

昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、総会をはじめ大半の行事を中止としましたが、今年度については、しっかりコロナ対策を行い、またZOOMを活用するなど、工夫を凝らして友の会活動を行って参ります。ご協力、よろしくお願いします。

目次

ご挨拶	2
情報クリップ	3
博物館NOW	3
活動報告	4
学芸員の雑記帳	5
行事案内	7

コロナに負けず頑張りましょう

会長 鈴木智明

昨年度は新型コロナウイルスに振り回された一年でしたが、今年度も感染防止に努めながらのスタートとなりました。



博物館のご協力のもと、総会も開催し、今年度の事業計画が承認されました。昨年度は総会を始め、ほとんどの講座が中止となり寂しい1年間でした。現在コロナの状況は昨年と比べかなり悪い状況ではありますが、今年度はしっかりした感染防止対策や、ワクチン接種などによるワクチン接種によるコロナ対応の状況等を踏まえ、コロナ禍でもできることを見極め、友の会としても、出来得る限り、活動を進めたいと考えています。

また、この一年で大きく変わったのがネットを活用したテレワークやミーティングなど、直接会わなくてもコミュニケーションができるという、新たな様式の変化ではないでしょうか。友の会もZOOMを導入し、役員会等や各講座でのコミュニケーションに役立てています。これが更に広がり（博物館の直に触れる・・・というポリシーには反するかもしれませんが）、コロナ後でも友の会活動の活性化につながることを期待しています。

制限された生活が1年以上も続き、また今年度はオリンピックという世界的なイベントが開催されます。気が緩みがちになりますが、ここはしっかりとコロナ対応を行い、友の会活動を進めて行きたいと思っております。

会員の皆さまも、お体に気をつけてお過ごしください。今年度もよろしくお願ひします。

ごあいさつ

館長 平田大二

日頃より、当館の運営と活動につきまして、ご理解とご協力、ご支援をいただき大変感謝しております。



昨年度はコロナ、コロナで、その名を見ない日、聞かない日はありませんでした。当館はもちろんのこと、友の会の活動も大きな影響を受けました。行事の中止や計画変更、その連絡など、さまざまところで役員をはじめ、会員の皆さまもご苦労されたことと思っております。当館が臨時休館中には、友の会の活動にも制限をかけさせていただきましたが、皆さまのご理解とご協力のおかげもあり、今日まで感染者を出すことなく至っています。あらためまして、お礼申し上げます、しかしながら、依然としてコロナ禍は収まりそうにもありません。ワクチン接種も始まるようですが、変異株がでてきて、新たな展開にもなりそうですので、油断は禁物でしょう。もう一度、一人一人が「感染しない、感染させない」ことを意識して、まずは自分自身と家族、そして周辺の方々、さらに社会全体を守るよう行動をしていくしかないと思っております。

さて、4月になり、当館職員の顔触れも変わりました。渡辺雅己新副館長をはじめ新しい方々が着任されました。今後、折に触れて一緒に活動することがあると思っております。また、私自身も3月末で再任用の任期が終わり、4月からはあらためて非常勤として現職を勤めることとなりました。

友の会の存在と活発な活動は、当館の存在価値を高める重要な要素の一つです。今後、お互いがますます発展していけるよう努めてまいりますので、よろしくお願ひします。

情報クリップ

友の会会員数：335名（5月15日現在）

正会員：332名／賛助会員：3名

●博物館人事異動（令和3年4月1日付）

＜副館長＞

転入：渡辺 雅己

＜管理課＞

転入：石塚 隆夫（管理課長）

：廣瀬 綾乃

：相馬 夏実

：土田 凌生

新規採用：和田 千晶

転出：鈴木 泉

：稲見 浩太郎

：工藤 麻衣

＜学芸部＞

採用：和田 英敏（特別研究員）

＜企画情報部 企画普及課＞

転入：水嶋 淳（学習指導員）

新規採用：吉田 沙也

＜企画情報部 情報資料課＞

新規採用：望月 千奈（司書）

●博物館人事異動（令和3年4月21日付）

＜管理課＞

新規採用：春口 清隆

●退職（令和3年3月31日付）

吉岡 貞一（前・副館長）

保坂 浩志（前・管理課長）

藤森 京子（前・管理課）

平賀 保彦（前・企画普及課）

下出 朋美（前・学芸部／企画普及課 兼務）

杉崎 均（前・学習指導員）

●2021年度 友の会担当職員のご紹介

佐藤 武宏、樽 創、渡辺 恭平、本杉 弥生

博物館NOW

「まさに目からうろこ」

副館長 渡辺 雅己

友の会の皆様、はじめまして。

副館長に着任しました渡辺です。利用者の目線に立った館運営に心がけていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

さて、私ごとですがここ10年ほど趣味として写真撮影を楽しんでいます。コロナ禍で行動範囲が限られておりますが、自然の多彩な美しさを写真という形で表現しようと機会を見つけてはカメラ片手に出かける日々を送っております。

撮影を始めた頃はシャッターを切ることだけが楽しかった私ですが、人と違った写真を撮りたいと思うようになってからは、撮るものが決まったらその対象物をよく知ることから始めるようになりました。花や野鳥のときは、その生態や行動形態を知ること、風景のときは、日没時間、太陽や雲の動きなどの知識を収集するようになりました。そうした積み重ねの結果、この鳥の鳴き声はあれだ、あの花はあれだなんて自分なりに思いを巡らすことができるようになったことは大きな収穫だと思っています。

4月以降、仕事として当館の業務に触れることになりましたが、自然科学の知識を深める様々な取り組みが行われており、自分の興味のあることが博物館でより深く習得できることを知って、目からうろこが落ちる思いです。博物館は標本類を展示するという形態ばかりが注目されてしまいがちですが、展示だけでなく県民の皆様のご好奇心に応える様々な取組について、もっと多くの方に知ってほしいという思いが強くなりました。

また、当館関係者以外の方ともお話する機会を得ましたが、小学生の時に遠足で訪れた楽しい思い出を話される方が多く、当館が多くの方から愛されていることを改めて実感しました。

県民の皆様の自然科学への興味は衰えることなく、当館が担う役割は今後ますます大きくなっていくものと思います。これまでの当館に対する良いイメージを継承するとともに、様々な取り組みを進化させていくためには、当館の職員はもとより友の会やボランティアの皆様とのワンチームの連携があつてこそできるものだと思います。

私も、微力ながらそうした連携の一翼を担う気持ちで日々取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

活動報告（植物観察会）

◆「泉の森の春を楽しむ」

2021年4月18日(日) /神奈川県大和市 /13名/
講師：田中徳久学芸員 /担当：植物グループ

観察会当日は前日の荒天の様子から、中止という残念な連絡を覚悟しておりました。しかし好天に恵まれ昨夜の不安を忘れるほどの爽やかな天候の中、林間の小径を歩くことが出来ました。

泉の森へは車で数十回は来ていましたが、今回は初めて電車利用での入場となり、今まで立ち入ったことのないエリアでの植物を会員の皆様から名前や特徴を教えていただき、興味津々の一日が始まりました。

その植物の中でも神奈川県内では、3箇所では確認されていないアブラナ科のコンロンソウについて田中先生の説明を伺い、実物を見ながら小葉が鋭頭で、葉柄の基部が耳状に茎を抱かない特徴を意識して写真撮影に夢中になりました。

また、今年は例年になく早く花が散ってしまったナデシコ科のワダソウについては、上部の2対の葉が近接し、仮輪生している特徴をもっている様子や県内でも貴重な植物であることを知りつつ観察できたことが心に残っています。

趣味の溪流釣りで山吹ヤマメという言葉があります。山肌ヤマブキの花が咲く頃がヤマメ釣りの本格的なシーズンに入り、ヤマメの食味もよくなるという意味だそうです。このヤマブキに似た四弁の花びらをもつヤマブキソウが私は好きで、その群生が見られよかったです。この花の花言葉は『すがすがしい明るさ』とあります。まさに今日の観察会の様子そのもので、会員の皆様の地面を集中して見る眼力に驚くとともに、明るい笑顔で会話されている様子が印象深い観察会でした。また機会がありましたら、ぜひ参加したいと思います。ありがとうございました。(佐藤啓治)



観察会風景「サツタギの花に夢中」



花の終わったワダソウ

ヤマブキソウ



シュウニヒトエ

コンロンソウ

◆「身近な植物観察会」

2021年5月22日(土) /博物館周辺 /6名
講師・担当：植物グループ

4月に続き今年度2回目の観察会です。男性2名女性1名は何れも過去に1,2回参加されたことのあるリピーターの方々です。



みんなで調べる

クサイ(イグサ科)とヒゴクサ・マスクサ(カヤツリグサ科)でカヤツリグサ科は茎が三角形であることやイグ

サ科は茎が円筒形であることなどを話す。私も随分前の事ではあるがヌカボシソウ(イグサ科)を初めて見た時、てっきりカヤツリグサ科と思ひこみ勝山先生の著書「日本のスゲ」の本を最初から最後までページをめくった記憶があります。

満開のテイカカズラは大木のイロハモミジを飲み込みそうな勢いで覆いかぶさっていました。



満開のテイカカズラ

足元にはベンケイソウ科の黄色い花。「ツルマンネングサかな?」「葉は互生?三輪性?」と調べてもはっきりしません。参加者のお一人が重たい図鑑を持って来てくれました。花を1,2本頂いて「花の咲いている葉は互生ね。無花茎の葉は4輪生になるんだって!」「やっぱりメキシコマンネングサで決まりね。」分からなかったことが分かるって楽しいですね。



一件落着のメキシコマンネングサ

4月の時は蕾だったハンショウヅルも満開の時を終えて今は果実になっていました。(浅川久子)

活動報告（よろずスタジオ）

◆「いろんなキノコを見てみよう」

2021年4月18日（日）／博物館講義室／32名
（大人16名、子ども16名）

スタッフに与えられた主なミッションは当日の会場設定やらのお手伝いと、野生のキノコを持参する事。このコロナ禍で密にならないように配置工夫しながら何とか会場を設置し、最近では当たり前となったアルコール消毒もパンデミック対応重要ポイントとして準備しました。

参加者は小グループで体験時間30分毎の入れ替え制ですので、短い時間に如何に楽しんでいただけるかが勝負所。菌類、キノコの解説でじっくり知識を得ていただき、次はいよいよ生のキノコを見てみるサイト、親子も目を凝らし、セミの冬虫夏草を見て「どこにキノコがあるの?」とか、「これもキノコなの」と言いながら、触ったり、なでなでしたりして、「ブヨブヨしてるね、ゼリーみたい」と、いろんな声が聞こえてきました。大人はキクラゲを見て「中華料理に入っているキノコですよ」と目を輝かせ、皆さん興味津々。キノコに詳しく、キノコ大好きという男の子は、コフキクワチガキに張り付き、頭のような部分を何度も押して胞子が出ないかと次々に挑戦しましたが、どれもこれも胞子が空っぽで残念そうでした。しかしこの時間がやはり皆さん楽しかったようです。

趣向を変えての工作はパタパタ折り紙。折り返していくとキノコの一生が表れるのですが、ここまで来るのにはハサミで切り、糊付けあり、折り返しありでちょっとした頭の体操よろしく親子で真剣に取り組み、出来上がるとみんなで歓声が上がります、こちらもバッチリでした。

私としてはもっといろんな種類のキノコを用意したかったのですが、ハイキングコースや公園に何度かキノコ探しに行ってみたものの、思う様に見つからなくて程々になってしまいました。それでもこの春の時期に発生する、アミガサタケ、ウメハルシメジ、キクラゲ類を見て頂けたのでよかったです。食用になるハルシメジは皆さんに見学していただいた後も一部は標本に、一部は有志が腕をふるい、夕食？おつまみ？の一品にと無駄なく利用させていただき、キノコも満足しているかもしれません。キノコ知識も広がり、楽しいひと時であったと思っております。（菌類ボランティア）



学芸員の雑記帳②

学芸員 渡辺 恭平

樹液酒場の隠れた主役、カナブンの話

梅雨が明け、いよいよ夏本番になると、雑木林のクヌギなどに点在する樹液酒場のにぎやかさが増してきます。今回話題とするカナブンの仲間はスーパースターのカブトムシやクワガタムシ、オオムラサキなどと比べて外道とされがちですが、実はたくさん魅力をもった主役級の昆虫です。

カナブンの良さは何といても普通に見られることです。虫採りの先客がいても、カナブンは採られずに見逃されていることもあるし、都市部でも案外しぶとく生息しています。そして、昼間に活動するため、観察しやすいです。こんなどこにでもいる虫ですが、幼虫の生態は長らく不明であり、クズの群落の土中に生息しているのが報告されたのは2011年になってからです。

カナブンはおとなしいように見えて、実はかなり好戦的です。彼らの攻撃法は頭突きで、よく頭突き合戦をしている姿を観察できます。樹液を吸うカナブンを指でつついてみてください。樹液がよっぽど美味しいのか、それとも酔っているのかわかりませんが、猛烈な頭突きをしてきてかわいらしいです。また、頭突きの途中で指の主（人間）に気づくと、ビクッと反応し、気まずそうに後退りするのも愛嬌があります。カブトムシやクワガタムシのケンカは良く観察されていますが、カナブンのケンカを観察したら、また別の発見があるかもしれません。

カナブンはケンカこそカブトムシやクワガタムシ



図1

図2

図1, 2. カナブンのオス（図1）とメス（図2）。前脚の形がちがう。

よりも弱いですが、彼らには絶対にマネができない能力があります。それは飛ぶ能力で、甲虫の中ではとびきり上手です。図1はカナブンの標本写真ですが、前ばね(鞘ばね)の前方に注目してください。実はこの部分が盛り上がり、張出したようになっていることで、前ばねを開かずに、すき間から後ろ羽を出して空を飛べるのです。そのため、樹液酒場にいるカナブンの群れを脅かしたときは、あっという間に飛んで逃げてしまいます(転がり落ちる間抜けな個体もたまにいますが…)。

神奈川県において、樹液酒場に見られるカナブンの仲間は3種います。以下に紹介します。

カナブン(図1,2)は最も普通に見られる種で、県内各地に広く見られますが、どちらかといえば平地や丘陵地に多い種です。体の色に変異があり、茶色、赤色、緑色、灰色(少ない)など様々な色が現れます。緑色の個体はアオカナブンとしばしば誤同定されていますが、裏返して後ろ足の付け根を観察し、離れていればカナブン、ぴったりくっついていればアオカナブンである点で区別できます。クヌギやコナラの樹液だけでなく、アラカシやタブノキの樹液にも良く集まるため、都市部の公園や神社でも良く見られます。カナブンの「ブン」は飛翔時の羽音にちなみ、古い文献でカナブンブンと書かれているものを見たことがあります。



図3. クロカナブン

クロカナブン(図3)もカナブン同様に県内各地に広く見られ、平地や丘陵地に多い種です。成虫は他のカナブンよりも少し遅れて出現します。体が少し大きく、色が真っ黒なことや、匂いが少し甘ったるい(他の2種は生乾きの布巾のような匂いがする)ので簡単に区別できます。

県内では普通種ですが、近畿地方ではかなり珍しい種のようなです。昔、私が神戸に引っ越しをした際に、現地の虫仲間が歓迎会を開いてくれたのですが、その時に採集から帰ってきた友人が開口一番この虫の自慢を皆にし、私は何も知らずに「そんな虫の何が有難いの?」と言ったところ、その友人は涙目になりながらクロカナブンが近畿地方ではどれだけ尊い

虫かを説いてくれました。そのくらい珍しいそうです。



図4. アオカナブン

アオカナブン(図4)は県内では主に山地で見られ、大磯丘陵など比較的低標高の場所でもたまに見られますが、そのような場所での個体数は他の2種よりも圧倒的に少ないです。透き通るような黄緑色で、見る角度によって赤色や緑色に変化し、日本屈指

の美しい昆虫であると思います。この虫を命名したモチュルスキーは、こんなに美しい虫に対してunicolor(単色)と学名(種小名)を命名しましたが、大変センスが無い名前と言わざるを得ません。本種は一度実物を見れば簡単に区別できますが、カナブンしか見たことが無い人は、カナブンの緑色の個体を本種と誤同定することがあり注意が必要です。



図5. リュウキュウツヤハナムグリ

最近、東京湾の臨海部を中心に、カナブンに似たリュウキュウツヤハナムグリ(図5)という国内外来種が増えています。樹液に来るハナムグリの仲間は県内にも何種かいますが、本種を除きいずれも羽にまだら模様がある(色が均一ではない)ので、簡単に区別できますが、本種

は一見するとカナブンそっくりなので注意が必要です。近年県内でも分布が広がっているようで、分布の動向に注意が必要です。

行事案内

◆「地話懇話会」

～地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う～

演題：『西富岡・向畑遺跡について（仮題）』

講師：田口公則学芸員、西澤文勝学芸員

日時：8月25日(水) 15:00～16:30

(質疑応答時間を含む)

場所：博物館東西講義室

対象：友の会会員

参加費：無料

申込み：必要（人数制限あり 40名＋スタッフ）

詳細はチラシ、ブログでご案内します。

◆ 植物観察会『初秋の箱根路を歩く』

お玉が池から芦之湯まで二子山山麓を歩きます。湿地や明るい林縁、樹林帯など変化に富んだコースです。スノキ、ヒコサンヒメシヤラ、カモメヅルの仲間、イヌヤマハッカなど、いろいろな植物の観察を楽しみましょう。

日時：9月10日(金) 雨天中止

場所：お玉が池～芦之湯（足柄下郡箱根町）

集合：箱根登山鉄道・箱根湯本駅改札 8時50分
(お玉が池までバス)

終了：芦之湯 14時30分頃

(小田原行バスに乗り)

講師：田中徳久学芸員

対象：大人10名（応募者多数の場合抽選）

参加費：800円/人

締切り：8月23日(月) 必着

担当：友の会植物グループ

連絡先：浜岡 0463-82-2349 (18時以降)

*詳細は返信はがきでお知らせいたします。

◆ 大人の昆虫講座『カメムシを知ろう』

カメムシと聞くとあの匂いが苦手という声を良く聞きます。でもカメムシには美しい翅のものが割合多くいて綺麗だから好き！という人もいます。今回の大人の講座はそのカメムシをもっと知ろうと、企画しました。

日時：9月22日(水) 10:00～14:00

場所：博物館周辺と実習実験室

講師：伴光哲氏（千葉県立中央博物館学芸員）

対象：大人 15名（多数抽選）

参加費：500円/人（保険料・資料代など）

締切り：9月10日(金) 必着

担当：友の会 里山むしてくクラブ

連絡先：金子 0465-34-9331 (18時以降)

詳細は返信はがきでお知らせします。



アカスジキンカメムシ



エサキモンキツノカメムシ

◆ 植物観察会『身近な植物観察入門』

博物館周辺を歩き身近な植物を観察します。

初心者中心です。会員外の方も大歓迎です。

9月の「身近な植物観察入門」も申し込みは電話でお願いします。

日時：9月25日(土) 10時～12時 雨天中止

集合：博物館正面 前庭 10時

終了：同所 12時頃

参加費：友の会会員・非会員ともに無料

(当日の保険は植物グループで掛けます)

講師：友の会植物グループ

対象：オープン（友の会会員 会員以外の方も参加できます）

小学3年生以下は保護者同伴でお願いします。

申込み：9月19日(日)～9月24日(金)

浜岡 0463-82-2349 (18時以降)

持ち物：飲み物・雨具

問合わせ：浜岡 0463-82-2349 (18時以降)

(博物館には問い合わせないで下さい)

・雨天その他の事情で中止の場合は担当者から電話連絡いたします。

・「身近な植物観察入門」は10月11日も行う予定です。10月11日の詳細は友の会通信9月号に掲載します。

◆ 昆虫観察会

『10月みんなどうしている？秋の虫』

秋が進む10月の一日、虫たちに会いに行きませんか。夜だけではなく昼間でもなく虫は案外多いです。華やかなチョウばかりではなくバッタ類も探してみましよう。

日時：10月5日(火) 9:40～14:20 雨天中止

場 所：小田原市久野
集 合：伊豆箱根バス諏訪の原公園バス停 9：40
小田原駅東口2番バス停から9時発
伊豆箱根バス諏訪の原公園行き終点下車
小田原駅伊豆箱根鉄道9時発大雄山行
飯田岡駅下車徒歩25分



アオマツムシ (メス)

解 散：諏訪の原公園バス停 14：20頃
講 師：渡辺恭平学芸員
対 象：大人 15名 (多数抽選)
参加費：400円/人
締切り：9月20日(月) 必着
担 当：友の会 里山むしてくクラブ
連絡先：金子 0465-34-9331 (18時以降)
詳細は返信はがきでお知らせします。

**尚新型コロナウイルス感染防止のため中止になる
場合もあります。**

◆ 植物観察会『秋の衣笠山公園』

三浦半島のほぼ中央にある衣笠山公園は駅から徒歩10分、植物の豊かな丘陵です。ヤマハッカ、シラヤマギク、オカダイコン、ツルギキョウなど秋の植物を楽しみながら歩きましょう。



オカダイコン



コバノカモメヅル果実

実施日：10月13日(水) 雨天中止
場 所：横須賀市 衣笠山公園
集 合：JR 横須賀線衣笠駅 9：30
解 散：同駅 15：00頃
講 師：田中学芸員
対 象：大人10名 (応募者多数の場合抽選)
参加費：500円 (保険・資料等)
締切り：9月24日(金) 必着

連絡先：石橋 046-847-2707 (18時以降)

*新型コロナウイルス感染状況によっては、
観察会を中止する場合があります。
詳細は返信はがきにてお知らせします。

友の会主催行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでの受付は原則出来ませんので、ご注意ください (講座によっては可)。ご不明な点は友の会事務局へお問い合わせください。

■必要事項：行事名/開催日/参加者全員の氏名・年齢(学年)/会員番号/代表者の住所・電話番号/指定事項

注意!

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます (参加費が会員とは異なる場合があります)。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接<連絡先>へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます

次号は、2021年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.25、No.1、通巻112号 2021.6.15発行
編集：友の会広報部
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田4-9-9
TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846
E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp
Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>
Twitter：@kpmtomo